

違ひ、重大な要求眞面目な生活であるのである。人類の大きい調節生活の一つである、

さて幼児にかゝる調節生活を學ばしめる爲には、能くその遺傳性の成熟期や發展状態を洞察し、時に應じて良材料、良機會を供給せねばならぬ。此の事は之をたゞ自然に任せて置くだけでは中々うまく行くものではない。これらは皆家庭の父母や保育所の保母の工夫と努力とに期待せねばならぬのである。

○おたより

倉橋先生は豫定の如く去る十二月十三日外遊の途につかれ先づ米國へ向つて出發されました。十六日にコレア丸上の先生から無線電信が参りました。

タイへイヨウ ノ ヒロサカナ

茫渺たる大洋を過ぎつて先生は舊臘中にサンフランシスコへお着きになつた筈です。また時々のお便りを皆様ともに待ちませう。

○思ふまゝ

母親が我が子の遊び相手になつてゐる時はそこ何とも云はれない落つきがあります。母親には「自分の子供である」と云ふ自然の安心がありますから他の人（名使ひでも又は親戚關係の人でも）がお相手をしてゐる時はその空氣は何となく騒しいものです。たゞ矢鱈によく遊ばせやうと骨を折り「我がもの」と云ふ安心がなくて「托せられたるもの」と云ふ所から一種の責任の感じがつよいためです。幼稚園でも受持保母とその子供達との間には一種の落付き静けさがあります。時には今この室に居るのかと思はれる程しづかに、先生と子供とは融合してゐます。それが何かの場合に受持でない先生がその子供達を預ると、先生自身が静かでありませぬ。何だかあせります。やつぱり「自分のもの」になつてゐないためです。

大人が二人相對した時でも、お互の間に不安があると、どうも二人はお喋舌をします。黙つてゐるのが恐しい様で。しかし親友になると二人向き合つて平気で長い間沈黙してゐます。そしてそうした落付きが、何とも云へず嬉しいものです。（子）